

CASE
06

株式会社丸仙工業

気軽にオーダー家具の
デザインが可能な
製作支援システムの構築

オーダー家具の受注には、色や寸法、材質など事前にさまざまな確認が必要となります。発注側と受注側とのムダなやりとりをなくすため、タブレットやパソコンで操作可能な製作支援システムを構築しました。

代表取締役 田中 智範



DATA

株式会社丸仙工業

代表者 代表取締役
田中 智範

所在地 〒832-0088
福岡県柳川市間690-2

TEL 0944-72-2201

FAX 0944-73-6366

URL <http://www.marusen-k.jp/>

業種 家具の企画・製造・販売

資本金 1000万円

設立 1987年7月

社員数 31人

1 PICKUP STORY
製作前のやりとりが
リードタイム長期化の
要因に

家具量販店向けを中心に食器棚製造でノウハウを蓄積し、近年はオーダーメイドの家具作りにも力を入れています。

オーダー家具を受注する際、発注者の依頼内容は寸法、色、材質などがさまざま。ただ、手書きでのオーダーは記載漏れやミスが多く、その度に確認が必要となります。紙の専用フォーマットを作成してのやりとりも進めましたが十分とはいえず、実際の製作までに時間がかかることが課題となっていました。

2 PICKUP STORY
発注者と受注者の
やりとりを円滑にする
システムを構築

納期はあらかじめ決まっているため、事前のやりとりに時間がかかることは製作期間を圧迫することになります。長年の慣習で当たり前となっていた紙でのやりとりを変えるため、思い切ってシステムでの運用に置き換えることにしました。

システム業者とやりとりを重ねて構築した「収納ソムリエ」は、寸法や色、材質などの各種条件を設定できる家具製作支援システム。タブレット端末での操作で、発注者はユーザーとの打ち合わせで出た要望をその場で反映しながら提案図面を作成できるのが特長です。

発注者から送られたデータは社内の専用パソコンで管理し、製造現場に指示を出す製作図面の作成まで一連の流れで進められます。

家具作りの製作前にかかる工程をシステム構築によって短縮

3 PICKUP STORY
納期が厳しい
案件でも
対応可能な体制に

「収納ソムリエ」の構築で発注側と受注側双方にとって負担軽減の効果を生まれました。シス



テムでの操作となったことで記入漏れや計算ミスがなくなり、提案図面の作成にかかる時間も短縮しています。そのため、受注後の確認作業で手間を取られることが圧倒的に減りました。

データでのやりとりが可能になり、製作図面の作成環境も大幅に変化しています。以前は手作業で作成し、繁忙期には1日に数十件の案件を抱えることがありました。その負担が図面の書き間違いなどを引き起こす要因にもなっていました。今で



は依頼を受けたデータを基に即座に作成できるため、納期が厳しくて以前は諦めていたような案件にも応えられるようになってしています。

COLUMN

システム構築をきっかけに現場の生産性向上へ

QUESTION 1 システム化を意識し始めたきっかけを教えてください。

当初は経済産業省のサポイン（戦略的基盤技術高度化支援）事業での展開も考えていました。ただ、既に似たような仕組みを構築している事例もあったため、自分たちの現場に合わせる形で進める流れとなりました。

QUESTION 2 システム構築を後押しした要因は？

『将来性のあるビジネスを』と考えた時に、外部から知恵を借りる必要があったと考えていました。システム業者の方とのやりとりでは現場を見てもらいながら、自分たちの要望に合う形を築いてもらいました。

QUESTION 3 今後の展開について教えてください。

食器棚は家具の中でも部材が多い製品です。現在は規格品とオーダー品を一緒のラインで製造していますが、部材のバーコード管理など工程管理を強化し、よりスムーズな生産体制を築いていきたいと考えています。



ここがポイント

長年の慣習を変えることで
新たな展開へ

取引先との長年の慣習で当たり前となっていることも、切り口を変えると双方にとってプラスになることがあります。構築したシステムは今後、地場のハウスメーカーなどへの訴求によって利用拡大を考えています。

